

越水に対して「粘り強い河川堤防」とは

越水に対して「粘り強い河川堤防」の定義

< 背景 >

- 気候変動の影響を踏まえ、「施設では防ぎきれない洪水」は必ず起こることを前提に、**越水に対する河川堤防の強化を推進する必要がある。**
- 平成20年土木学会報告書では「越水が生じた場合、計画高水位以下で求められる安全性と同等の安全性を有する構造物すなわち**耐越水堤防とすることは現状では技術的に困難**」、「**堤防を粘り強くする努力はさらに進めることが重要**」との見解が報告されている。

< 定義 >

- 粘り強い河川堤防は、**越水しても決壊しない堤防ではなく**、施設の能力を超える洪水に対し、避難のための時間を確保するなど、被害をできるだけ軽減するため、越水した場合でも**決壊しにくく、堤防が決壊するまでの時間を少しでも長くするなどの減災効果の発揮を目的。**
- 越水に対して「粘り強い河川堤防」の実現にあたっては、
 - ①**既存の堤防の性能を毀損しないこと**
 - ②**越水した場合でも決壊までの時間を少しでも長くする粘り強い性能**（以下、「越水に対する性能」という）の付加の双方の性能を実現するため、対策工法の構造検討・施工及び維持管理等の観点から技術開発を進める。